



ホームページ

(上) ふれあい館に展示中のシムーン機の一部

(下) ポークール市の模型作成プロジェクト

神埼 フランス

## 『アンブロン・シムーン』

### 『コードロン・シムーン機』

Vol.6

1936年、華やかな冒険飛行の時代、フランス・ポークール市出身の飛行家、アンブロン・シムーン氏は、パリ東京間の懸賞飛行に挑戦しました。その時乗っていたのが、コードロン社のシムーン機（「砂漠の熱風」の意味）です。航空郵便・長距離耐久レース・軍用など様々な役割を持つ飛行機として急速に広まり、著名な飛行家たちが、シムーン機で数々の記録を打ち出し

年までに500機以上が製造されたと言われています。元々青色だった機体を赤色に塗り替え、レースに挑んだシムーン氏でしたが、ゴール直前で脊振山に墜落。その機体の一部は神埼市が所蔵し、脊振ふれあい館に展示しています。同じく、東京都港区の日本航空協会にも、同機の一部が保存されています。現在、同型のシムーン機は世界に2機残っているそうです。

たことで、その名は一躍有名になりました。工業生産に成功し、1940

身近なフランス語を話してみよう！



ボンジュールネ!

Bonne journée!

良い1日を!

◎問い合わせ 企画課  
企画係 ☎3710102

現在ポークール市では、シムーン氏が乗っていたシムーン機の模型を作り、本市に贈るプロジェクトが進行しています。

【情報提供】ポークール市  
コードロン・シムーン機復元協会

